

NACISIS-CAT/ILLの理念と
課題解決に向けた取り組み
—いかにして業務分析表が生まれたのか—

国立情報学研究所(NII)
学術基盤推進部 学術コンテンツ課長
米澤 誠

2010年12月8日

学術情報システムの構想(1)

- 新しいシステムは**資源共有**の考え方を基調として構成することが有効である。すなわち、これまで既存の各大学等の諸機関において蓄積されてきた人的、物的な各種の資源、今後新たに蓄積される可能性のある資源等を含め、有効な**相互利用**を前提とし、機関間の全国的なネットワークを構成することが望ましい。
- 学術情報システムと利用者である研究者との媒介の役割を果たす窓口またはターミナルの機能が必須である。この機能は、国公立の大学等の各図書館が担うことが最も適切であろう。各図書館は、一次情報の流通においては、入力機能をもつ言わば情報の形成者である。同時に、このネットワークを通じて**総合的なデータベース化**によって**図書館業務の抜本的な合理化**が図られる。これらによって大学図書館は学術情報システムの重要な構成要素としての新しい発展が期待される。

(学術審議会「今後における学術情報システムの在り方について(答申)」昭和55年)

学術情報システムの構想(2)

- 総合的な学術情報システムを形成するには、**図書**、**学術雑誌**等の**目録情報のデータベース**と**所在情報のデータベース**の検索利用を包含することが重要である。
- 今後、我が国においてもオンラインシステムにより洋書、和書のMARCデータベースを利用し得るようになれば、全国の大学大学図書館がそれぞれ端末機器を通じて資料整理を行うこととなり、**整理業務の著しい能率化**をもたらすばかりでなく、同時に、自動的に**全国的な所在情報が形成**されることとなる。これによって、一次情報がどこに所在するかが記録され、**図書館間の相互利用を格段に進める**ことができる。

(学術審議会「今後における学術情報システムの在り方について(答申)」昭和55年)

目録所在情報サービスの構想

全体的な動向

各大学の動向

構想

全学術情報資源の共有

大学の学術情報資源の電子化

方法

総合目録の形成とILLの電算化

図書館業務および目録の電算化

成果

膨大な総合目録とILLの安定稼働

業務の省力化・サービス向上

書誌ユーティリティとしての課題状況

「書誌ユーティリティ課題検討プロジェクト」を設置し，大学図書館の現状分析を踏まえ，NACSIS-CAT/ILLの課題に対する検討内容といくつかの提言を行う。[平成16～17年度]

- 近年NACSIS-CAT/ILL「共同構築」，「学術情報資源の共有」という基本的な理念の衰退が疑われる現象が起きている。**図書書誌レコードの重複率の上昇**に代表される総合目録の品質の劣化，**雑誌所蔵レコードの未更新率の上昇**，**ILLの謝絶率の上昇**に見られるILLサービスの品質劣化等である。これは利用者の図書館サービスへの信頼性，及び図書館自体のサービスの業務効率の両方を損なう恐れのある極めて重大な問題である。
(「書誌ユーティリティ課題検討プロジェクト最終報告」平成17年10月)

(1) 大学図書館全館の数値的分析

平成15年度の統計をもとに、以下の各項目について分析を行い、実数値とあわせ国公立別および規模別の指標を算出。

- ・図書書誌： 新規作成件数，重複レコード作成件数など
- ・図書所蔵： 累計件数，新規登録件数
- ・雑誌所蔵： 累計件数，「＋」付所蔵件数，未更新件数
- ・ILL： 複写貸借受付総件数・謝絶件数・所要日数，サービスステータス切替回数

→ 「NACISIS-CAT/ILL業務分析表」の誕生

(2) 大学図書館の訪問調査

数値的分析による指標結果を、聞き取り調査による現場の状況と照合し、現状と問題点について整理するフィールドワーク的作業。全国15大学への訪問を実施。

(3) 会議による検討

自館の努力により、書誌ユーティリティの運用に対して高度なモラルを維持しながら業務を進める参加館がある一方、多くの参加館で、人員削減・業務統合等の環境の変化に伴い、目録やILLの業務レベルを低下させていること、そして本来CAT/ILLはどうあるべきかの理念自体の認識がない参加館の存在が浮き彫りになった。

NIIアクションプランの策定

- (1) NACSIS-CAT/ILL運用ガイドラインの策定
- (2) 外注のための仕様書モデルの提示
- (3) 研修の強化と資格・認定制度の提案
- (4) 図書書誌レコード調整方式の改善
- (5) 雑誌所蔵更新への強制力
- (6) 図書館評価のための基礎的数値の開示

課題解決に向けた方策

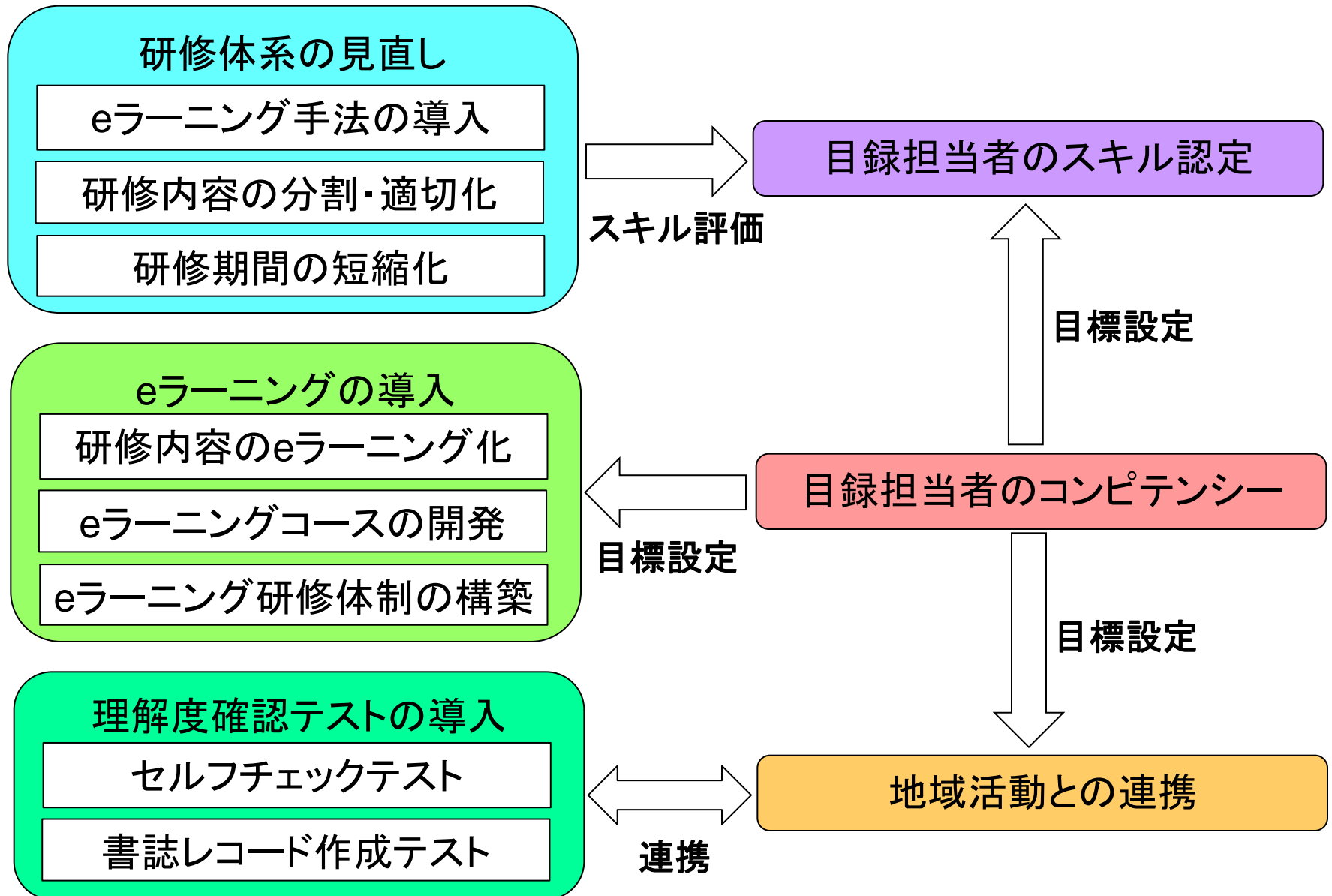
- (1) 総合目録の品質維持に関するモラルの向上
- (2) 目録業務の知識・技術の向上
 - ・ 現行の講習会・研修の強化
 - ・ 目録業務担当者への資格認定制度の導入
- (3) 目録業務の各種基準準備
- (4) 相互協力の趣旨の徹底とモラルの向上
- (5) 相互協力の業務バランスをとるための仕組みの整備
- (6) 各参加館のレンディングポリシーの確立
- (7) 継続的な業務分析表の提供による自己評価体制の確立
- (8) 書誌ユーティリティへの貢献度を含む図書館評価指標
- (9) NACSIS-CAT/ILLの再評価活動

講習会等に関する改善

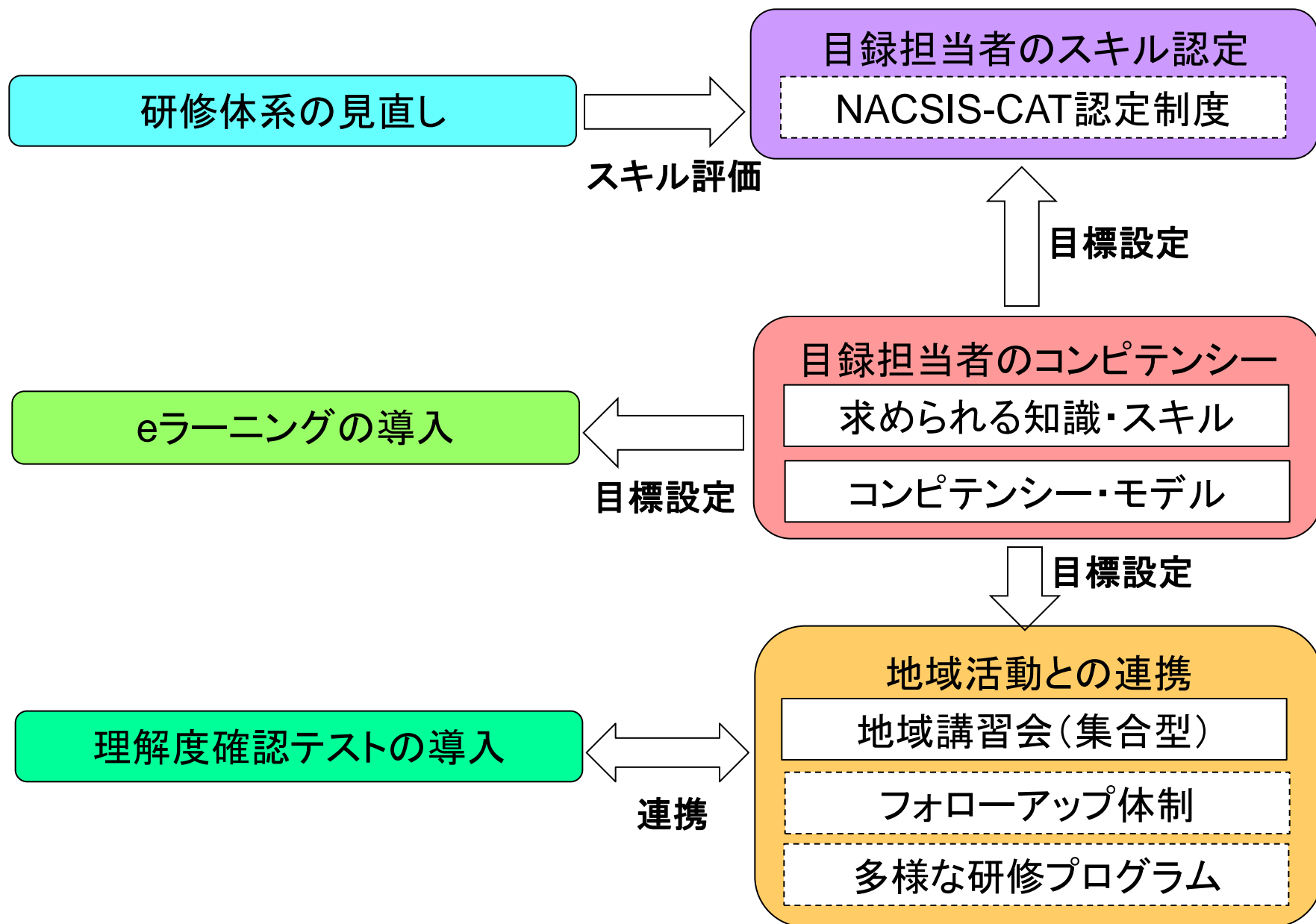
「目録所在情報サービスを対象とする講習会等に関する検討ワーキンググループ」を設置し、講習会・研修の見直しと強化の必要性及び具体的方策を検討する。[平成17～18年度]

- 「書誌ユーティリティ課題検討プロジェクト」の最終報告において、書誌ユーティリティの根幹をなす総合目録データベースの品質劣化の要因が明らかにされた。すなわち、各参加館における目録業務の実施体制が大きく変化していること、その結果、目録担当者のスキルが全般的に低下していることが指摘され、その問題を解決するために、現在NIIが実施している目録システム関連の講習会・研修の見直しと強化の必要性及び具体的方策を検討するための参加館とNIIとの合同検討組織の設置が提言された。（「目録所在情報サービスを対象とする講習会等に関する検討ワーキング・グループ中間報告書」平成18年3月）

現行の研修の改善提案



目録担当者のスキル向上・地域活動との連携



目録所在情報サービスの構想と変化

全体的な動向

各大学の動向

構想

全学術情報資源の共有

大学の学術情報資源の電子化

冊子体の情報資源を前提

方法

総合目録の形成とILLの電算化

図書館業務および目録の電算化

成果

膨大な総合目録とILLの安定稼働

業務の省力化・サービス向上

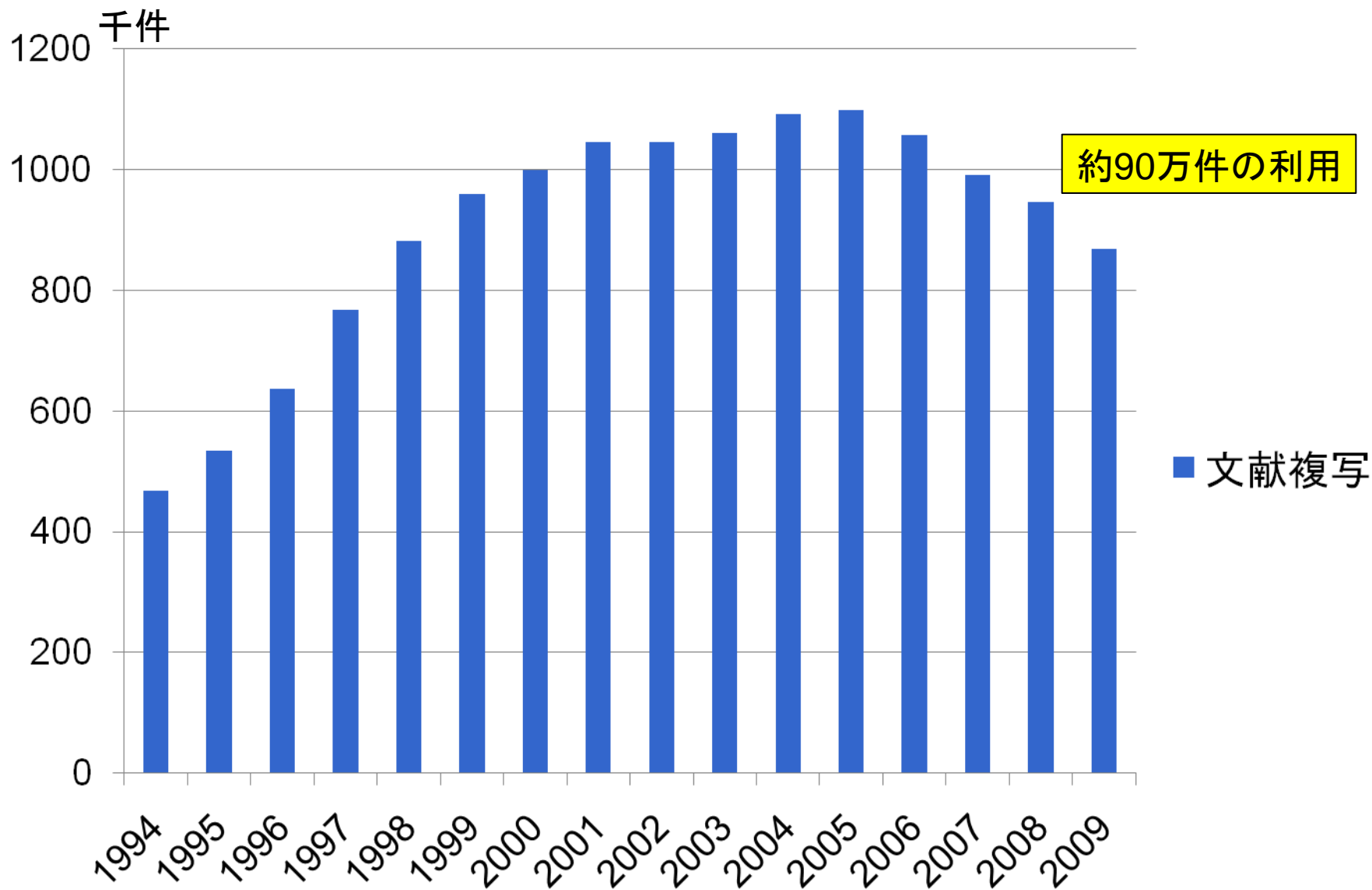
電子媒体の情報資源が流通

変化

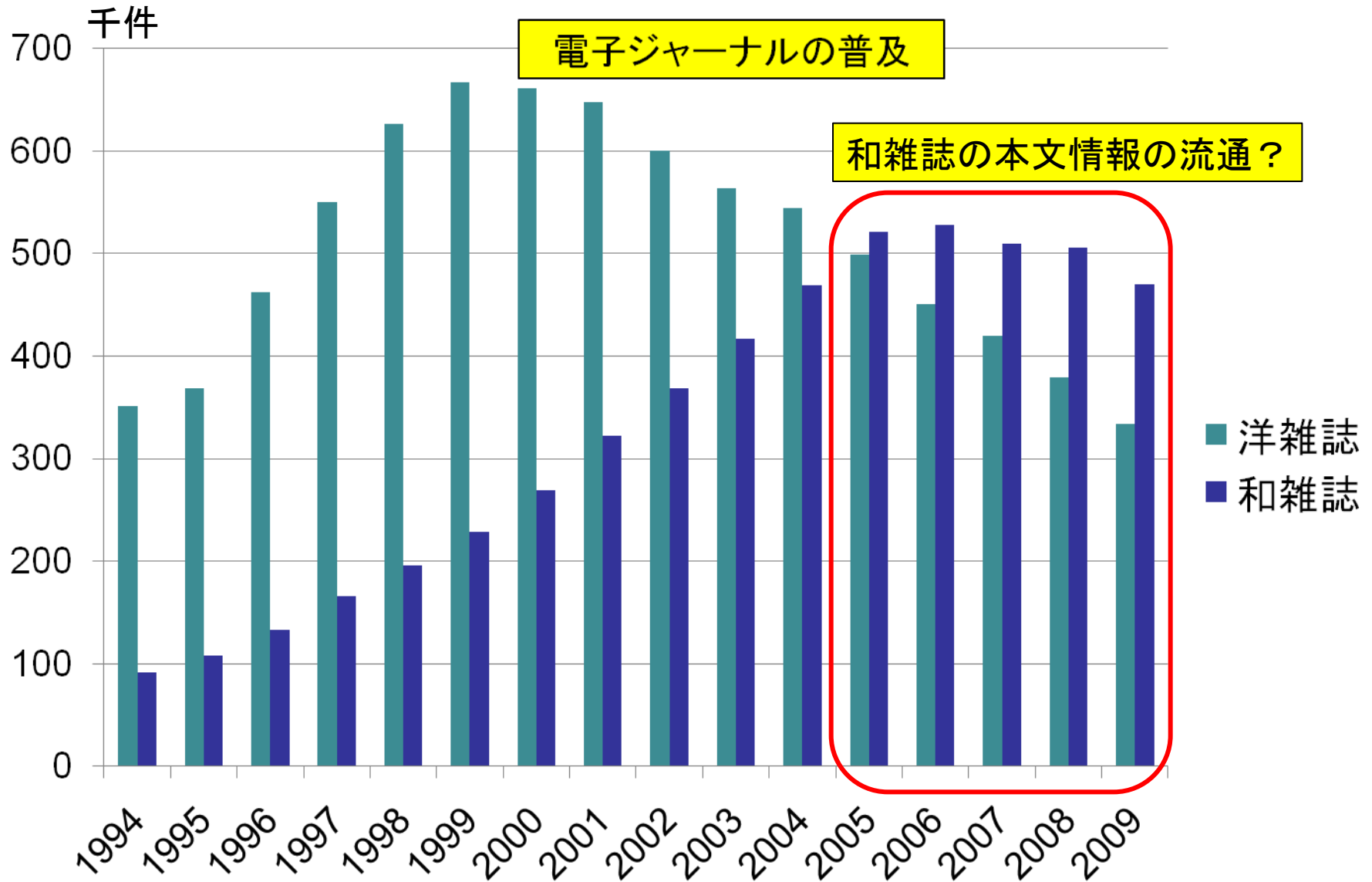
ILL利用数の減少

本文情報の流通と優位性

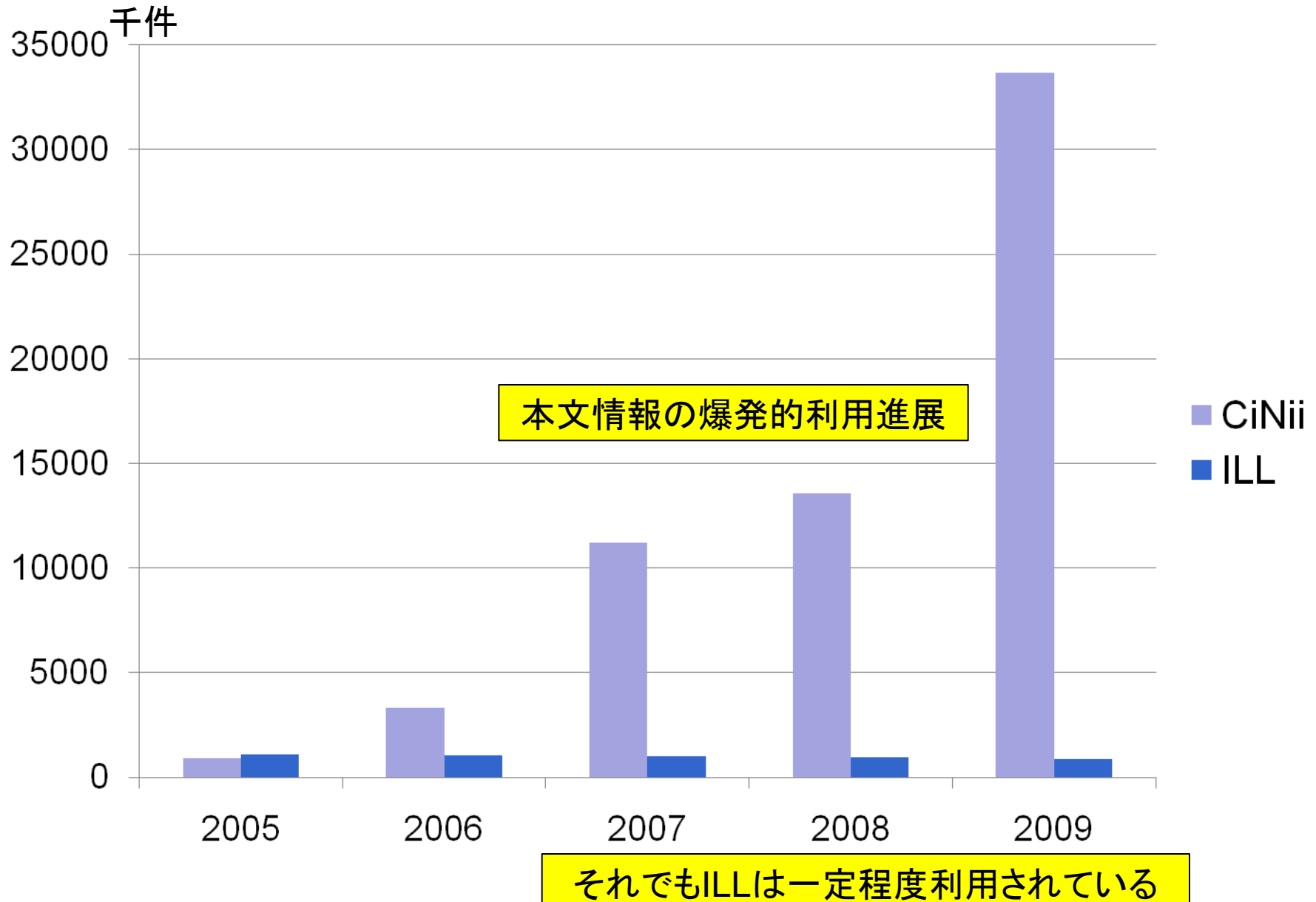
ILL文献複写件数の減少(1)



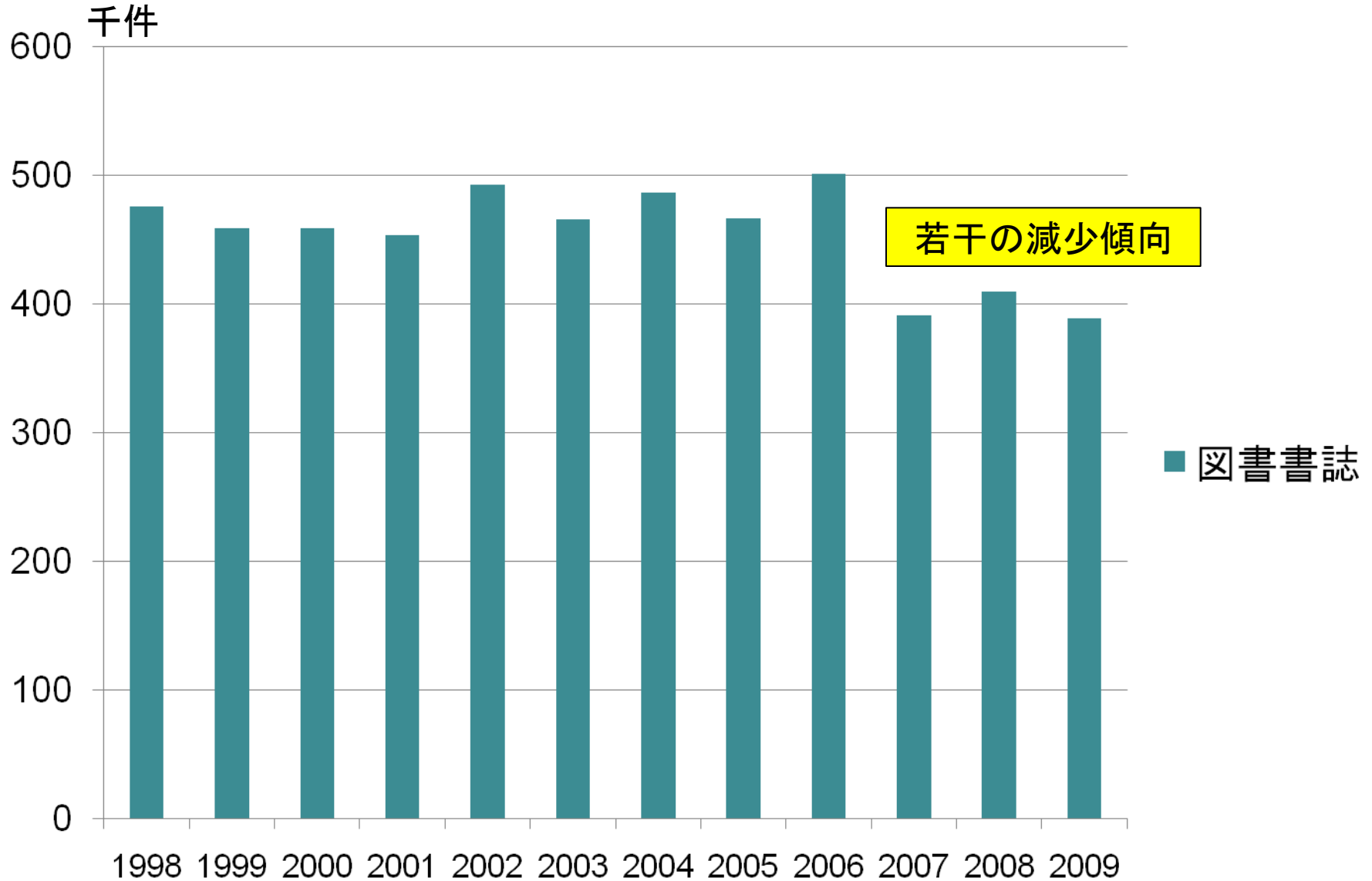
ILL文献複写件数の減少(2)



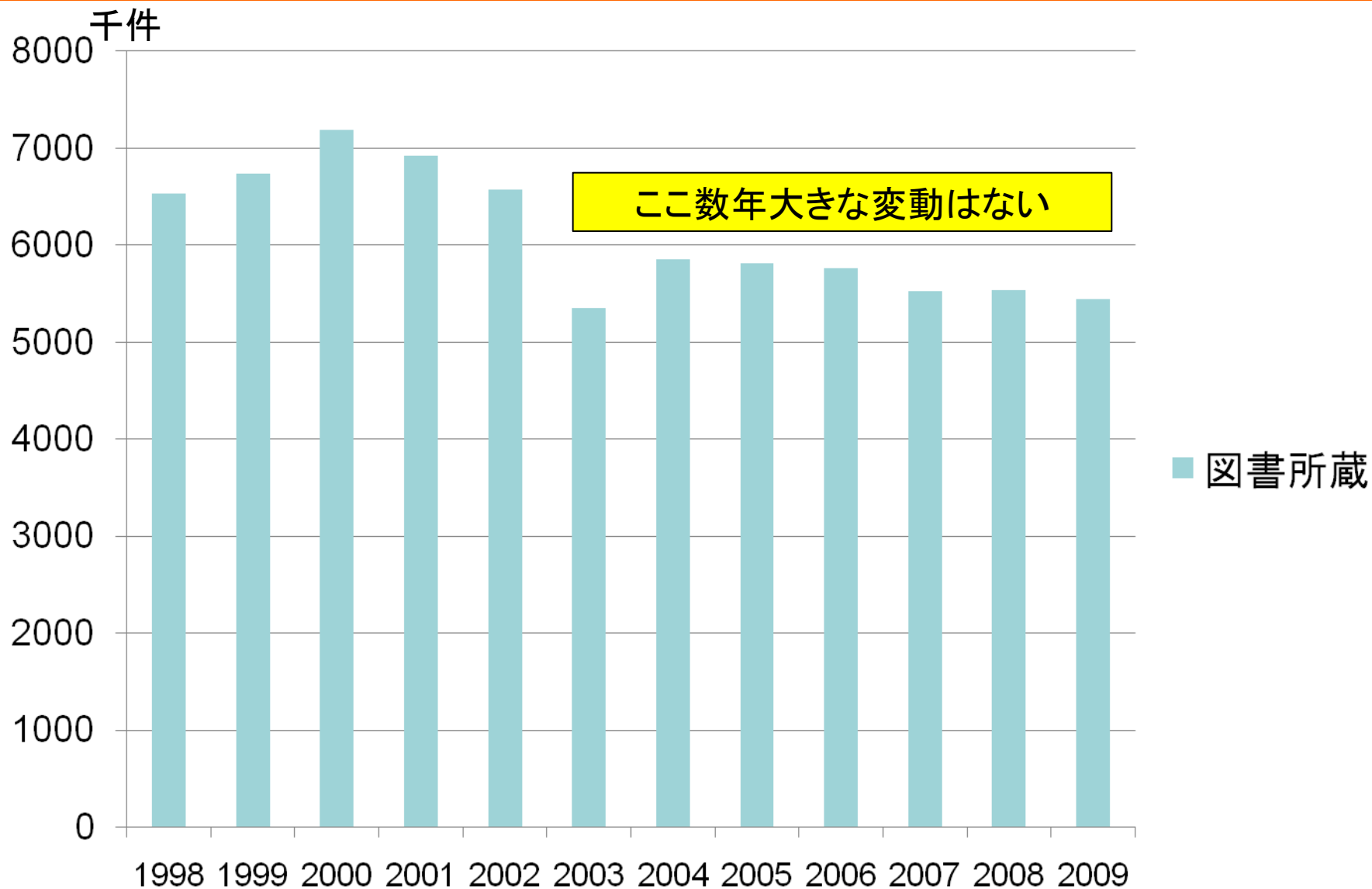
CiNiiダウンロード件数とILL文献複写件数



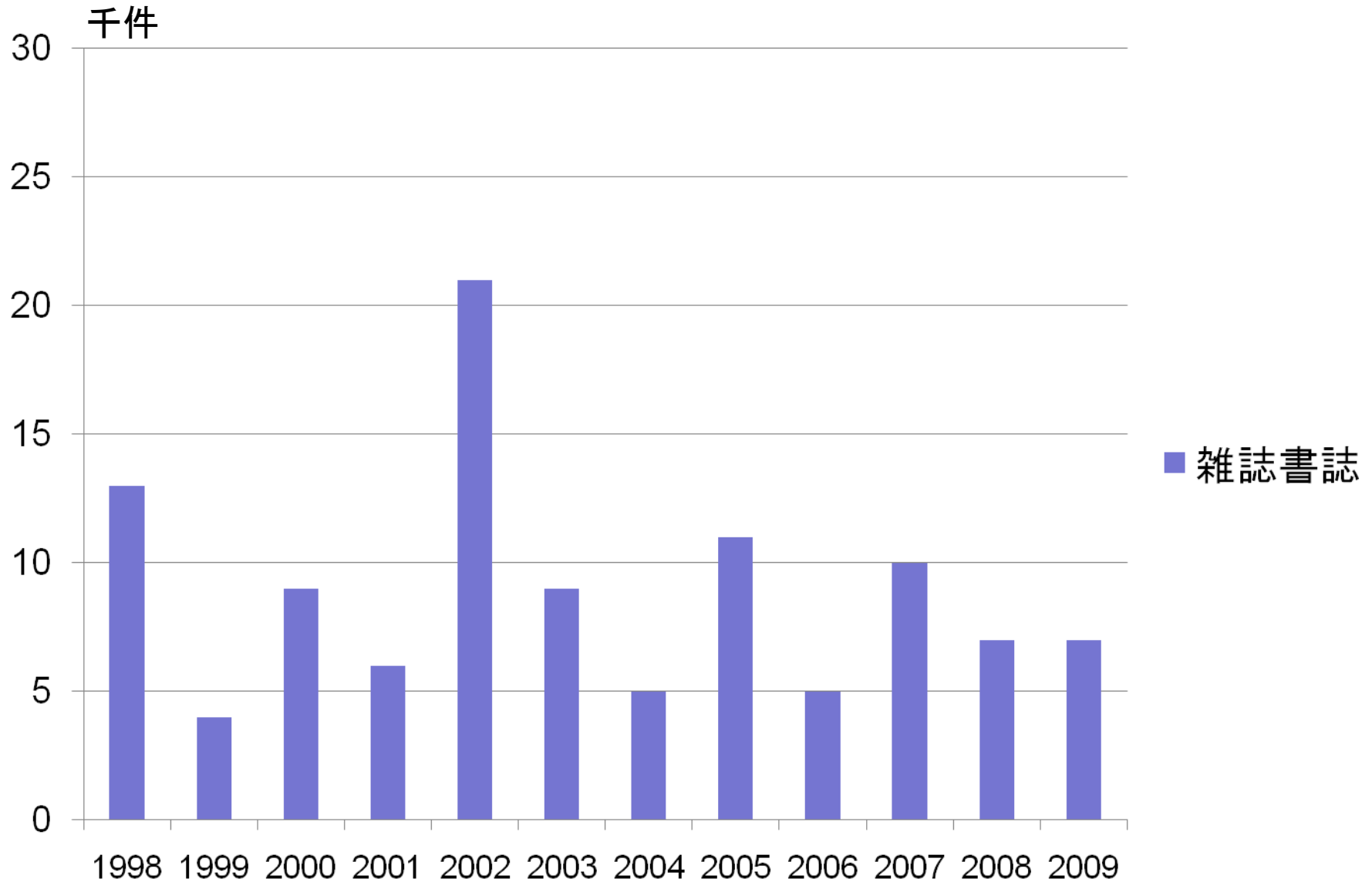
CAT登録件数の推移(図書書誌)



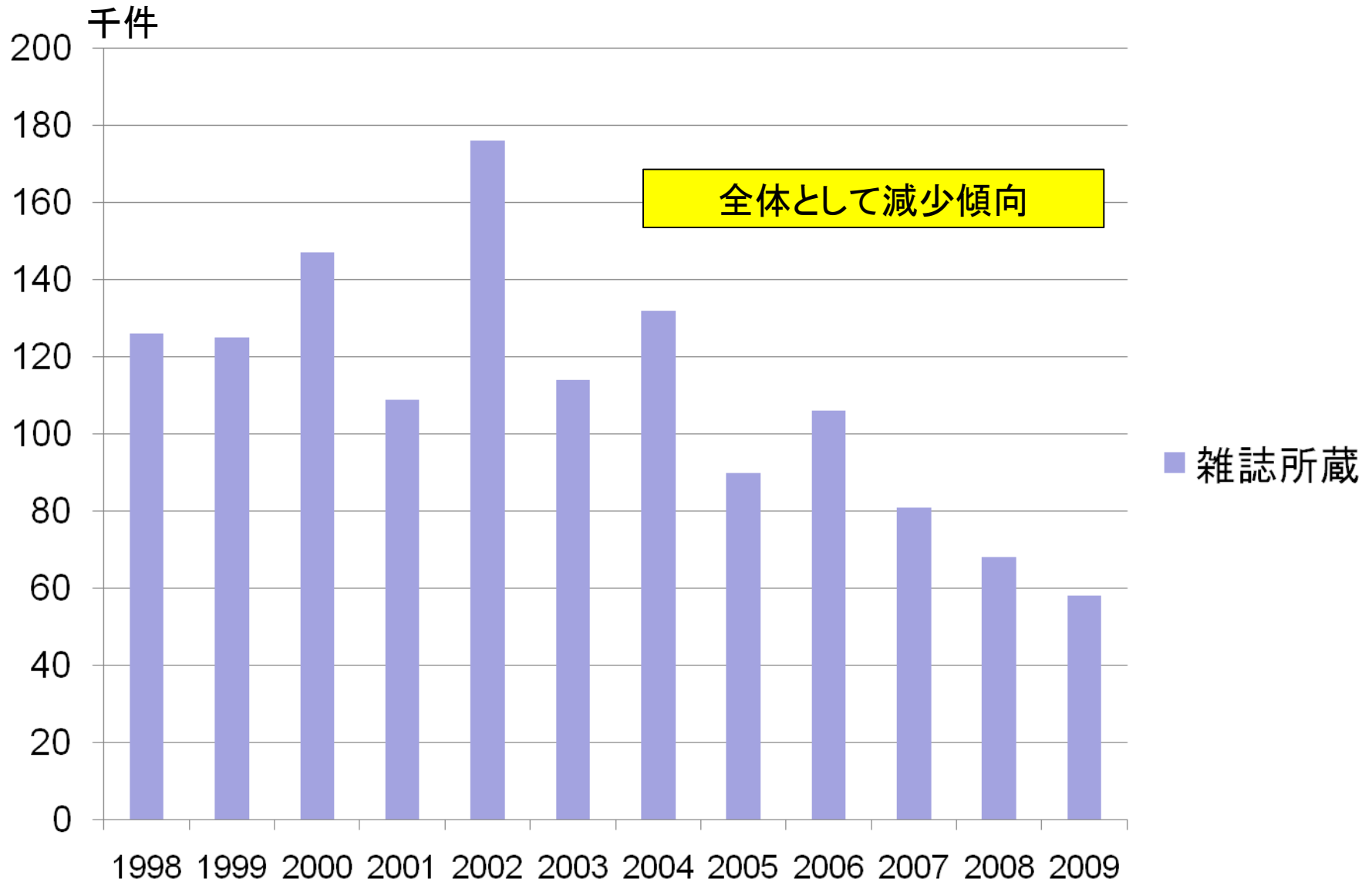
CAT登録件数の推移(図書所蔵)



CAT登録件数の推移(雑誌書誌)



CAT登録件数の推移(雑誌所蔵)



NII学術コンテンツ事業の取組み(1)

- 関連機関との連携協力による学術コンテンツの確保と形成
 - 目録所在情報サービス(NACISIS-CAT/ILL)
 - 国内の大学図書館等が所蔵する図書・雑誌情報を共同構築(約1,200機関)
 - 学術機関リポジトリ構築連携支援事業
 - 国内の大学等の論文等本文情報の発信を支援(168機関)
 - 電子ジャーナルリポジトリ(NII-REO)
 - 海外の電子ジャーナルの論文本文情報をアーカイブ(359万論文)
 - 電子図書館事業(NII-ELS)
 - 国内の学協会誌・紀要の論文本文情報を電子化(352万論文)
 - 国際学術情報流通基盤整備事業(SPARC Japan)
 - 国内の英文学会誌の国際化を支援(45誌)

NII学術コンテンツ事業の取組み(2)

- 付加価値を付けて学術コンテンツ・ポータルで提供
 - 科学研究費補助金データベース (KAKEN)
 - 科学研究費補助金の研究課題・成果情報に、研究者情報を付加 (63万件)
 - 図書・雑誌総合目録 (Webcat Plus)
 - 図書・雑誌情報に、目次情報と連想機能を付加 (1,900万件)
 - 学術機関リポジトリポータル (JAIRO)
 - 国内の大学等が発信する論文等のメタデータを統合し、本文リンク情報を付加 (98万件)
 - 論文情報ナビゲータ (CiNii)
 - 国内の論文のメタデータを統合し、本文情報と本文リンク情報を付加 (1,305万件)
 - 学術コンテンツ・ポータル (GeNii)
 - 上記の各データベースに対して、統合検索機能を付加

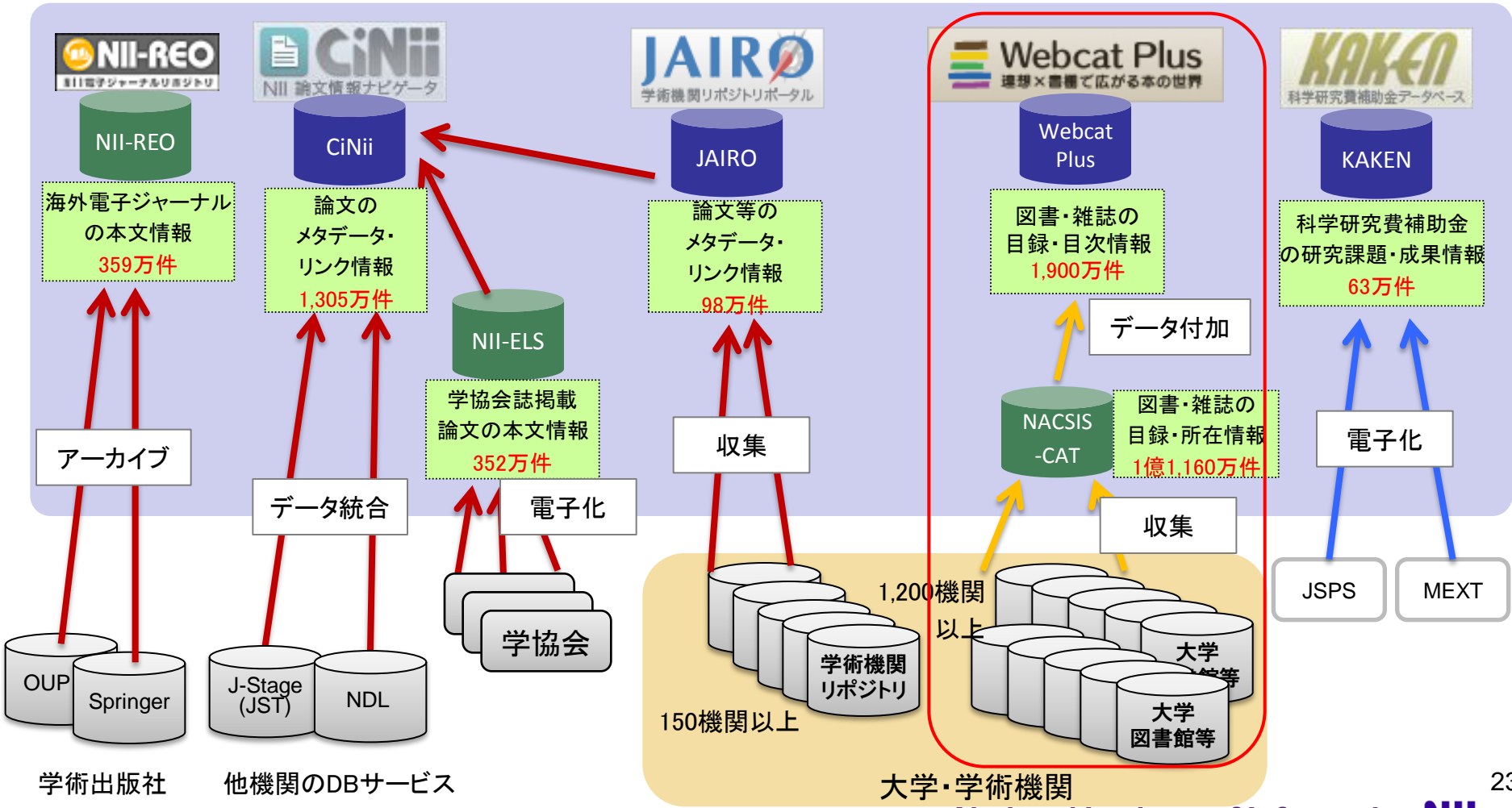
NII学術コンテンツ事業の全体像

提供

学術コンテンツ・ポータル(GeNii)

論文情報

図書・雑誌情報 研究成果情報



学術コンテンツ課の体制

